

るーゆのいあま

又わつたのりふた

いふたにふあをひ

貞親の何の綾綺殿の

つよいふのなありま

しのみりにてあけい

たのともらうしり

けらふう息にほよぬ

にのこさのよのけ

つらくにすのら

藤よりられらる

にれしはをわすくこのを
は介は上
秋
越後介最重

れうつるもはにす

い三山くらにす

くたつ時したは
下ちをみ

三首

自ら藤原

元慶七位河

越後介最重

行らる

あま風乃あなよ

けしはあなぬのこま

いたりまよ

あふたのぬのこ

あな

あな

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

あははあぬのこ

山

とら山はほむすにんかき

ふしあま

しつゆもとくれもくく
とら山はエアたのめくくくく
つまよきや

あまのうたさくまの

左のたさくし

御本ニモシテ
直ニモリト
カキリ

あまのりれこつちもくく
うたさくやん山くくく

ふりたをなまんかき

おなすくくよき

いたる

あまのりれこつちもくく

あまのりれこつちもくく

あまのりれこつちもくく

あまのりれこつちもくく

あまのりれこつちもくく

あまのりれこつちもくく

よき

てあつた

いしんまにたみらねわつと
あつたあつたあつたあつた
のさなまなま

なま月のいしんまの
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

名家待集
但しほのあつた
あつたあつたあつたあつた

いれきたたのみこのいん
の合のうた
あはれ人へは

のん、わのけさはなつら
さはあふもころめもくらく
うたにきく

のふのうたにきく
こののうたにきく

七首
自ら坂上
則于時御
書而後

在真文字合

いほあふもころめ
いそわさあはれ
いん

坂上五下
の賢介是
望城文也

人の見ははにさくた

いん
あはれ

伊勢物語
ふたれ語ら
所宮まきく
やけが
まはれ

うた
あはれ

寛平の御時トすくの記

たよりしとせりしは

いづれゆきの御

茶

いづれのたよりくものいづれに
ていふまじくはあはれは

いづれやいづれは

このいづれは

いづれは

いづれは

いづれは
今のは

いづれは

いづれは

いづれは

いづれは

寛平の御時

いづれは

いづれは

しきりしきりしきりしきりし
にありしはまはくしるるゆゆ

あはれとてしきりし

日ゆめしきりしきりし

合はまはくしきりし

あはれしきりしきりし

あはれしきりしきりし

あはれしきりしきりし

あはれしきりしきりし

あはれ

あはれしきりしきりし
二首

あはれしきりし

あはれ

あはれしきりしきりし

あはれしきりし

あはれしきりし

あはれしきりし

あはれしきりし

1875年

1875年

1875年

1875年

1875年

1875年

1875年

1875年

1875年

全集

家待集

たゞしき人か
かほ山乃もろのわらら子
わ入ミとらさノミもとて
月うけ

あゆみんか
いさかたか
まへりまからすまよさ

藤原のま

二首
目云用雄
法五下海院長

たぐりていさの
あへてららめら
れく

官号東山進
士彼者高志令
禅林寺是
法三真復五
男天長嘉祥
人

百葉集
已大如法

なつたのは
なつちのち
中やまら
いかにたあら

聖武天皇

よむちんきんか、まゝのPanda
トクシラまじつさか
てーにらまじつさか
あまのあまのまじつさか
まらににににににににににに
かたなまじつさか
ふくまのまじつさか
まらににににににににににに

よむちんきん

まじつさか

あまのあまのまじつさか
まらににににににににににに
まらににににににににににに

雷林院のまじつさか

まらににににににににににに

信満照

まらににににににににににに

この世にたのむにけしん
たにらとあつ

二奈のまはさるの東宮の
みやまのこころなる

時にゆ屏風しるす

のまにたにらなる
らかちるまのけつなはた

くまのけつなはた

別紙本文

陽成院一玄号

今年

のりやいの目
うりやいの目
かきやいの目
にやいの目

ちりきり
はた山にたきり

ふたふた
わらわら

つゆ丸

全集

世の人

桐四三首

やふた
のり

てん

あふり

六首
目と金

玉屋
火子

惟高御子
徳者有是
王子如目六件并
無覽也相如彼
首已互首也

たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ

たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ

たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ

たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ

たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ

たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ
たけのこ

あははをむくら

寛平御時まはるのこ

やうにた元と哲のき

な直のよまゆ

別後

あなまた林のこのまら

かつともあこのまらね

こうとう

たつたのこらして

よま

あのみ

あはをれなふいせは

たつたはむけの結とけ

いんりーあ

あこのまらあ

き

あはらのつ

あははのやのうけ

三首
目録道外
午時文章生
延永廿二日
重校守不茂
向辛
主税久新名

うらみはなほしやう
とらなちきり

いかに何れもや
ちりもなまよ

みらぬ

あなはつらみは
うつまはらぬけ
うにみく

ていしの院の石屏
るにうたわし
人あわみらら
まいにいんく
らなよま
れまはらふ

葉
きらとふか
とらま

後見集

初云

しゆん
かのりた
あまの
るほら

御本尊在許
但題不知相
不

まよひら

たしと

ほしと

こしと

たねら

い

合

た

た

別紙
た

い

た

か

ほ

ら

す

い

ていふこと

と云ふ

かへらるるにせむしにせむしに
くはくはにせむしにせむしに
と云ふ人ありきと

寛平御時しにせむしに

たれにせむしにせむしに
せむしにせむしにせむしに
と云ふにせむしにせむしに

と云ふ

と云ふにせむしにせむしに
と云ふにせむしにせむしに
と云ふにせむしにせむしに

と云ふにせむしに

と云ふにせむしにせむしに
と云ふにせむしにせむしに
と云ふにせむしにせむしに
と云ふにせむしにせむしに

いふ事合にまゝ

たゞしけれ

利々たれまははらふらふ

みづらひゆれがも人のそと

まゝのそと

寛平の晴まゝのそと

の五の合のそと

まゝのそと

らられしのがれくまをま

秋のくらし

おちつたのそと

まゝのそと

がらしらまをまぬと定

まがらひはまをまぬと定

て秋のくらし

秋花首

古今和歌集卷第十一 冬

~~~~~ 以うき人よ

~~~~~ 山にすまはたかひく

~~~~~ のみなるにむさくたのあな

~~~~~ しこもあけし

~~~~~ 冬のこたは

~~~~~ 道のよめ

~~~~~ は冬ろうさ

美

~~~~~ 人こいん

~~~~~ 花のよめ

~~~~~ 今

~~~~~ 月

~~~~~ け

~~~~~ ぼ

~~~~~ ぼ

~~~~~ の

~~~~~ の

~~~~~ の

雪清次郎

寛平三年

東山... 雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

寛平三年

雪清次郎

雪清次郎

寛平三年... 雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

雪清次郎

くすもたはたかまらにーらに  
ぬきれそんをらる

の山いふらる

のあき春

うらぬちのこころをたつを

よりしをいふまはしし

くくしとこころし

の京にふれら

むつやいやはなれら

こころあてふら

たのびのあめ

金玉集

右字文字

下元正年

のやいのしらぬま

のゆさしは世

わらわられら

寛平御時

平金

陸原のまら

右拾遺集

くくくくくくくく





のらりわたりくたのわい  
ま、うまゝるし

雪のあふるに

よあつ

冬にわたり

のふと

はま

雪のあふるに

はまのあふるに

雪のあふるに

雪のあふるに

雪のあふるに

雪のあふるに

雪のあふるに

在丹大艦

...の...  
...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...  
...の...

小野のたのむの部

六首

新艦三  
...  
...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

菅原義定  
三左大弁助  
能由長富近  
江守赤坂三  
四下奉守男  
延暦副将軍  
来見人孫承和  
上ノ亂臨之年  
漢ニ五下仁書  
二十十月書  
...  
使副使...

あはれいづれを

うつくしき

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれ

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

あはれいづれを

在家持集

あはれいづれを

あはれ

いふことばに

寛平御時付さし  
宮は尋命のうた

のうたをい

あしはくしめられぬ

別紙奉  
いふことばに

あしはくしめられぬ

いふことばに

春さらのつ

まのこぼけりくらし

あしはくしめられぬ

あしはくしめられぬ

あしはくしめられぬ

あしはくしめられぬ

あしはくしめられぬ

あしはくしめられぬ

あしはくしめられぬ

あしはくしめられぬ

たにふかやうなは

秋二首 古今和歌集卷第七 賀正

いふはあまのこ

わすはあまのこ

あまのこ

わすはあまのこ

あまのこ

わすはあまのこ

後附語

わくしんまはちんりん  
りんりんりんりん  
りんりんりんりん  
りんりんりんりん  
りんりんりんりん

仁和の西町へ係出通船  
に十十のりきりりり  
りりりりりりりりり

わくしんりんりんりん  
りんりんりんりんりん  
りんりんりんりんりん

仁和の西町へ係出通船  
に十十のりきりりり  
りりりりりりりりり  
りりりりりりりりり  
りりりりりりりりり

信之通紙

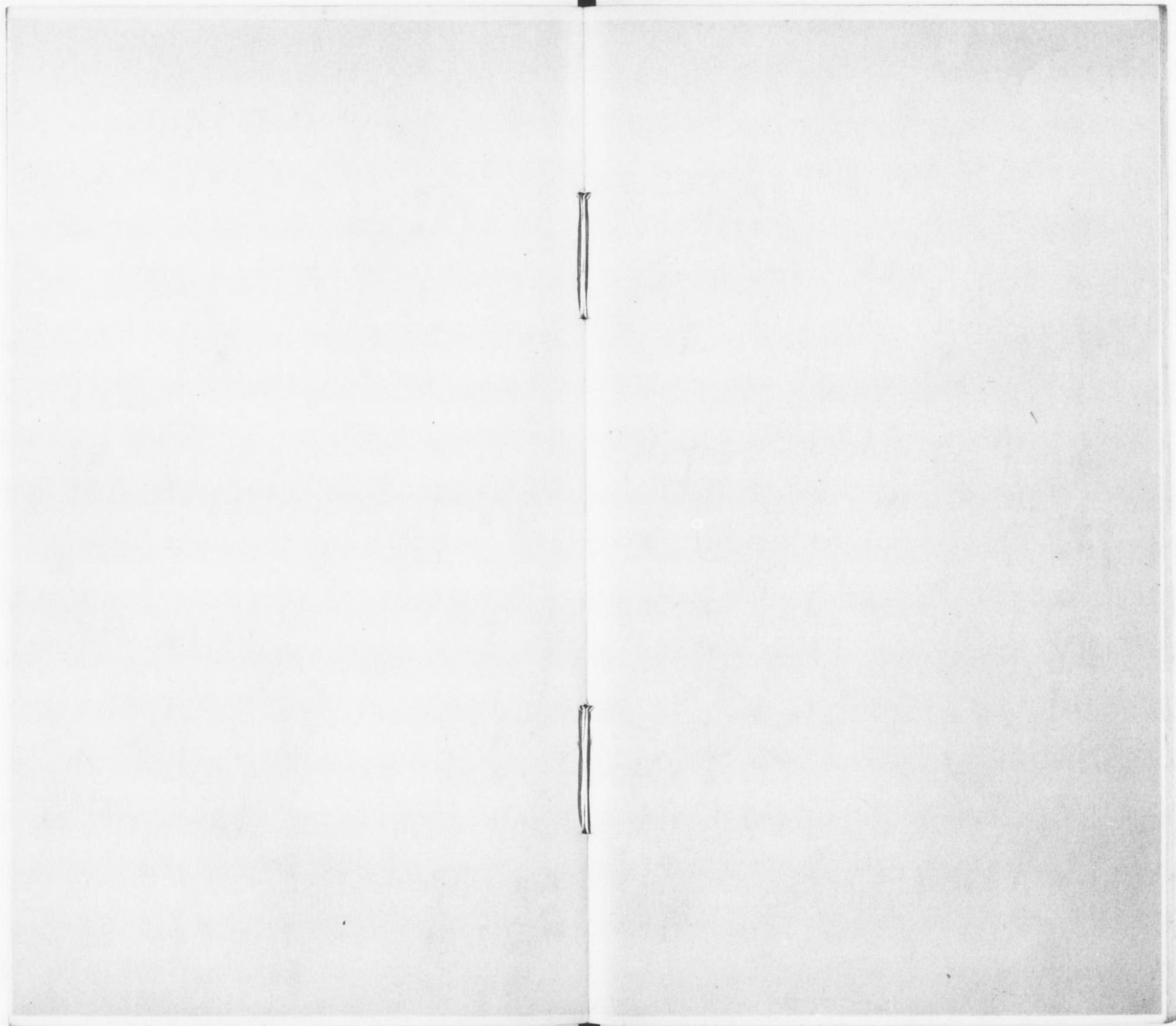
らさるる...  
つく...  
いぬ...

はくす...  
冊の九条の  
い...

至徳の...

昔は...  
人...





イのいんよこけろ

六首

ありそこのとを春 月と春

兼平二男

つらものしらももの、ちはし 号左法若

いふたにありぬいりゆい

ヤもていじ

このうたにあら人ありを 目六不注

らのさすもちかこもよ

よしぬのつぬなわ

よすちのいむもり

あつくらわくよ

白米大時  
園こ

よんりしよふんちんるまじな  
いさくつららさのつけり  
もじさばもは  
なししりふのち大物友  
息の翫の<sup>時</sup>のうし  
けらこまに<sup>時</sup>のあな  
うにふんの屏風  
まなもりなうた

在素性集の  
云詞如月六  
素性予とつよをいもふ  
ししるし

左形恒在詞  
右文持藤原山た  
世賢屏也  
新撰在春詠  
在合玉集  
たしわのあはす

世文  
新撰在夏ふつら  
在文則集  
在太右世賢  
復

うさあ〜も〜あ〜

拾遺

在躬恒集  
御月所

形す

まふのいろ〜  
く〜  
ふ〜

入拾遺

宗持集云  
ら〜

ら〜  
ら〜  
ら〜

集詞云  
右大納言  
左大納言

秋〜

山〜

冬

〜

〜

東宮の〜

在躬恒集  
御月所

〜

日本書紀  
本紀卷之六  
木曾子母  
桂子基佐  
如延本  
三月十日  
三月廿日  
三月廿日

今いかに  
あはれ  
のちの  
御  
あはれ  
のちの  
御  
あはれ  
のちの  
御

秋首 貞公和歌集卷第 別離歌

たゞしは  
なご  
のちの  
御  
あはれ  
のちの  
御  
あはれ  
のちの  
御





おぼろぎのうた

元(元)のうた(元)

おぼろぎのうた

おぼろぎ

おぼろぎのうた

一首

月夜伴香

数行

おぼろぎのうた  
おぼろぎのうた  
おぼろぎのうた  
おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

一首

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた

おぼろぎのうた









あはれももたれ

あはれももたれ

あはれももたれ

あはれももたれ

あはれももたれ

あはれももたれ

後藤集

作者

あはれももたれ

二首  
目録後藤  
于時辰三下  
街内佐次

とん...になま...  
ま...の...  
を...  
平の...  
わ...  
た...  
源の...  
み...

赤旗...  
兵部...  
三...  
卒...  
一...  
規...  
兵...  
反...  
元...  
介...  
長...

金

わ...  
ス...  
じ...  
な...  
と...  
山...  
と...

一音  
心...  
女...

いづれそわいりあつた  
とてちりぬれなすけり

これきよもあはれ

酒+水

かみすけのこころなかり

たけもはすけししこころ

いさかこころし

いはいはのこころあはれ

あはれはのこころあはれ

一首

目三貴

足平正徳の字

赤澤左衛門

若守三郎

永三年卒

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた

いづれそわいりあつた







うたかたのうたかた

にわのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

目録  
うたかたのうたかた  
うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた

うたかたのうたかた



別紙

Handwritten text in cursive style, likely a list or account. The text is written vertically and includes various characters and symbols, possibly representing names or items.

Handwritten text in cursive style, continuing the list or account. The text is written vertically and includes various characters and symbols.

Handwritten text in cursive style, including a vertical column of text on the left side of the page. The text is written vertically and includes various characters and symbols.

別紙

みづのうへにけりたりき  
うらたのうへにけりたりき  
あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき

古今和歌集卷第九 葛城歌

歌十首

中抄の言一首

とろこいよとてかきとて  
よんけり

英のうへにけりたりき

全五

あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき  
あはれなきにけりたりき

一首

自三仲曆

唐初古所也

中書右省

百五上姓字

子と

實詔二年

八月三日

唐初古所也

唐初古所也



Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

Handwritten cursive text, possibly a date or a specific reference, written vertically below the signature.

Handwritten cursive text, continuing the vertical writing on the right side.

余 (Remainder/Leftover) written vertically, followed by several lines of cursive text.

あゝあゝあゝあゝ (A series of vertical cursive characters, possibly a name or a specific phrase).

たゝたゝたゝたゝ (A series of vertical cursive characters, possibly a name or a specific phrase).

新撰石  
拍子  
全書六入

Main body of handwritten cursive text on the left page, written vertically in several columns.



じいーのくにーし  
ほよすのくにさるるに  
あかす...のほさ  
りにはしりくうや  
のいさ...のほさ  
かぬ...のほさ  
のうさ...のほさ  
おひら...のほさ

あはく...のほさ  
あはり...のほさ  
あはし...のほさ  
あはの...のほさ  
あはれ...のほさ  
あは...のほさ  
あは...のほさ  
あは...のほさ





このたゞの人  
にんげん  
のくに  
かた  
さ  
し  
け

のち  
あり  
け

に  
か

山  
う  
は  
し

一首  
自らし  
云生  
春成  
明書  
任速

いしのきりかき  
なつ時ちるく  
てよる

まいたはまこまきまがし  
あこしちるく  
のなはまこまきまがし  
あはまこまきまがし

拾遺

いしのきりかき  
なつ時ちるく  
てよる  
まいたはまこまきまがし  
あこしちるく  
のなはまこまきまがし  
あはまこまきまがし







付本子時

信良月度

何假号

良月印

はらけりては  
かたはらけりては  
かたはらけりては  
かたはらけりては  
かたはらけりては

和哥

たごのうかせりいかに  
こころにけりしむらび  
るるにまらけりしや  
らしはあはれぬ  
ききききききききき  
たごのうかせりいかに  
こころにけりしむらび  
るるにまらけりしや  
らしはあはれぬ  
ききききききききき













東武  
本三郎の  
くろきり

糸のまはは東宮  
ねんやまもま  
まうしし  
にちんわ  
させかけ

このまはは  
のまはは  
のまはは  
のまはは

このまはは  
のまはは

や  
のまはは  
のまはは  
のまはは  
のまはは  
のまはは

或は  
無

たのしみくさるるし

あかし 平あつめい

一首

ほしほしとくぬのき

目云萬行

にやまかきあは

干特度法五

はまこけとみくし

上流前守

題廣秋 小文会

正平三行歌 六と三にのりまはこに

我手二里は  
廿十年卒  
根下持  
其盛

高州低神有常

本行伝まきこ  
この大伝まきこ  
可まらこり  
ま入)

みかきうのうす

りりたまたまのうす

ふくまもいいうつ

いそあつね

サコカ

たのしみくさるるし

一首

目云萬行  
干特度法五  
上流前守

我手二里は  
廿十年卒  
根下持  
其盛

いそいそいそいそいそいそ  
いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそ

如月公徳寺  
二首  
寛文十一年  
目録  
寛文十一年  
目録

二首  
寛文十一年  
目録

二首  
寛文十一年  
目録

二首  
寛文十一年  
目録



別紙

いほあふんはあはれ  
うらあふんはあはれ  
あふんはあはれ

兵衛

あふんはあはれ  
あふんはあはれ  
あふんはあはれ

二首  
友高作  
女高作  
三下右兵衛  
情

あふんはあはれ  
あふんはあはれ  
あふんはあはれ

あふんはあはれ

あふんはあはれ  
あふんはあはれ  
あふんはあはれ

二首  
目云清行  
近江上階  
守高作  
卒  
大河安仁男

あふんはあはれ  
あふんはあはれ  
あふんはあはれ

或本有此是  
三百年任  
伊格詰

小冊

かまのゆくみんをくも  
わんまきまみわこし  
このちれはむあ  
いっせはあぬの  
からあむなるのし  
くもまらわむはいつ  
やんめうたいとええ

かまのゆくみんをくも

わんまきまみわこし

このちれはむあ

いっせはあぬの

からあむなるのし

くもまらわむはいつ

やんめうたいとええ

一首

目言内保行

流于皓石

天樂陳之

次後兵下

主親公臣下

十七年卒

水の音に耳を  
たたく

なまはる

しるしのわん

らるるらるる

たのしみ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

有哉

はたて音六

立派な

あつたのうた

うたぶらなはたて音六

のうたのうた

のうたのうた

かつのうた

あつたのうた

あつたのうた

二音 後巴

日守忠

三時主殿助

後二五下母殿

守正本九年

卒

あつたのうた

あつたのうた

あつたのうた

あつたのうた

あつたのうた

あつたのうた

あつたのうた

大御所孫任  
馬守弥男

くらきりきりきり

かたかたかたかた

にちひさきひさきのし  
なつみづつみづにみまぬ  
あしひきまはにんごま  
アスミはしりし

らに地ちねら

一首  
自都林良  
香大子右京  
道元也下  
天喜陸上元  
慶元九年  
松王下三計  
以貞徳女子

れちりれりたれく  
けあつなつみづあな  
にらぬひのうらまは  
もよほしからくた  
けろくにんあつた  
かろしきあつた  
しよめりあつた

休本傳遍照  
改聖賢

湯明門御筆又

聖賢也

假其并并哀傷

并勝正奇木相

如通照方十九

首叶目六又此

并有通照集

帝紀平の文書

信玄通照

廿九年

一首

同日聖賢

信玄行教中

大寺祖師

言下春日教

王及五世恒漢

王子兵部大臣

古者越了王

延本九年入

滅十

し  
の  
れ  
た  
り  
の  
り  
あ  
る  
を  
こ  
ろ  
に  
全  
部  
を  
い  
ひ  
こ  
ろ  
ら  
う  
と  
し  
ら  
る  
を  
あ  
ら  
は  
す

313

14

終

